

DMSP/FU (DWIDP) JICA 便り

ネパール自然災害軽減支援プロジェクト・フォローアップ（水資源省治水砂防局）

No. 21 / 2006.5.29



停留中の「山鉾」

カトマンズでは最近、曇りの時間が長く雨も多く見られます。雨季入りは例年6月中旬頃からもう少し先ですが路地は雨季時のように水溜りが広がっています。雨乞いの祭りであるマツチェンドラナートの「山鉾」は数週間同一箇所に停留した後、本日最終目的地のジャワラケルに向けてひかれます。

この約一ヶ月、ネパールは大きな変化を経験しています。日本のマスコミでも大きく取り上げられましたが、4月中旬以降、主要7政党等による反国王政府のデモの規模が大きくなっていき数十万人規模のデモがリングロードを取り巻くように発生するとともに現王宮に向けてのデモ隊も出るなど緊張が高まりました。この間、政府から外出禁止令が連日発令され、かつ7政党からのゼネストの呼びかけによる物流ストップ等生活環境も悪化し、JICA関係者の一時国外退避直前まで状況は切迫しました。200万人規模のデモを25日実施するとの呼びかけのなか、24日夜に国王から下院の復活と招集を柱とする声明が出され、7政党および多くの国民に受け入れられたため19日間続いたゼネストは解除され、25日のデモはビクトリーラリーとなりました。28日にはG.P.コイララ（ कांग्रेस党党首、元首相）を首相とする国会が開催され、5月18日には国王の権限を大幅に縮小する宣言が出されました。

この一連の動きで治安情勢も安定したように見えてきましたが、5月24日には医療ミスを発端とした周辺住民による病院に対する投石騒ぎや、警察の交通事故処理のまずさに端を発した道路封鎖などが発生し、政府のコントロールが十分ではないことを露呈しました。5月26日には政府とマオイストの直接の対話が3年ぶりに再開されました。王政の存続の可否やマオイストの武装解除など問題は山積していますが、真の安定に向けて動き出すことが期待されます。

我々専門家は安全に十分注意を払いつつ、ネパールの災害の軽減を図り、災害で苦しむ人々が少なくなることを願って活動を続けていきたいと思えます。

JICA 上田理事が来所されました

5月12日（金）JICA本部の上田理事がJICAネパール事務所の吉浦所長とともに治水砂防局に来所され、DMSP-FU およびDWIDPの施設等の説明をする機会を得ました。まず武士専門家が



DMSP-FUの説明
（上田理事：右から2人目）



パワーポイントにて DMSP および FU の概要を説明し、その後、現在 DWIDP にて開催中の第 13 回上級コース技術研修（主な出来事参照）を見ていただきました。本研修が DWIDP 側によって継続的に運営されていることについて、これまでのプロジェクトの成果であると評価していただきました。

続いてバッタライ局長およびシャルマ副局長から DWIDP の活動・実施状況および要望の説明がありました。最後に DWIDP 所有の地すべりの運動を示すモデルやモデルサイトの模型の説明をすることができ、土砂災害・洪水災害対策についての理解を深めていただくことが出来たと考えています。

主な出来事・トピック

地すべり対策計画の上田短期専門家が着任しました

5月12日（金）に地すべり対策計画の指導のため上田短期専門家（テクノフォレスト（株））が着任しました。ネパールでの滞在は6月11日までと約1ヶ月間の短い期間ですが、この間に、DMSP-FUの地すべり部門についてチャルナケル地区の地すべり対策計画の指導および地すべり対策計画のマニュアル作成という非常に重要な役割を担っていただくこととなります。



上田専門家による指導

第13回上級コース技術研修（Advance Course Training）が開催されました

5月4日～6月8日の日程で DWIDP の主催により第13回上級コース技術研修（Advance Course Training）が DWIDP のセミナーホールを主会場として開催されています。本研修コースは各省庁等の防災に関係ある上級の技術職員（エンジニアクラス）を対象としたもので、DPTC の時代から開始され、ネパール政府職員に土砂災害・洪水災害についての知識を広める役割を担ってきています。今回は灌漑局、道路局、土壌保全局、電力公社、ネパール軍などから参加があり女性職員も1名参加しています。5月18日には武士専門家と地すべり対策計画の上田短期専門家による地すべり調査・対策に関して日本の事例と考え方等についての講義を実施しました。講義中多くの質問が出されるなど受講生は積極的に講義を受けていました。



日本人専門家による講義

フォローアップ活動を進めています

地すべり対策計画の指導を実施しています

地すべり対策計画の講義・現地調査等を上田専門家の協力のもと、実施しています。上田専門家は着任後精力的に講義、チャルナケルおよびブンガマティのモデルサイト現地調査などを実施中です。特にチャルナケルの現地調査では、これまでに掘削したボーリング孔に測管を用いたすべり面



すべり面の確認
左：上田専門家



カハレコーラの砂防堰堤

確認作業の指導等を行っています。5月25日~26日にはムグリンナラヤンガード（M-N）道路対策箇所の調査を行い、カトマンズ盆地内とは全く違った様相の地すべり、および当地で実施している対策工種の確認などを行うとともに、同行したC/Pへの現地を見ながらの指導も行いました。またM-N対策箇所のうち2箇所において、治水砂防局では初の日本の設計によるコンクリート砂防堰堤がほぼ完成しており、その視察も行いました。

災害現地調査を実施しています

先月26日、JICAネパール事務所の徳田所員と一緒に約三週間ぶりに第四事務所を訪問しました。事務所は掃除が行き届き、職員は皆元気で挨拶を交わす事が出来ました。Curfew中も誰かが出勤し、事務所を守ったと言う事です。早速、災害現地調査の計画を建て5月5日に、KTM盆地の下流端に位置するBagmati-River沿いのPharsidol現場に決まりました。

出発前は快晴でしたが、現地では雷が空鳴りし、少し雨が降るといふ雨季始めの様な天候でした。第四事務所のMr.Mishra 技師・Rajendra オーバーシー・この村のチャーマンとで現場踏査をしました。約二十年前の大洪水で左岸の耕地侵食が始まり毎年繰り返している事。左岸にあったシバ神のお堂も最近の洪水で流失した事。この次は丘の上にある学校が流失しないかと村では心配している事等の話が踏査中に話されました。2~30年前後にBagmati 上流にて如何に激しく森林の伐採があり人口集中が始まったかを肌で感じる現場でした。洪水痕跡から洪水波曲線が大変シャープである事を浸食・河床堆積状況で観測されました。此处では簡易導流堤と小規模“わくいれ工”を、河道安定を目的とし試験的に施工する事を提案しました。流域の流出に関する保全の為の各種防災ルールが設けられる事が如何に大切であるかを話し合う現場でもありました。



左岸被災現場 下流吊橋橋面より



吊橋にて

左から MISHRA Rajendra Shabr 各氏と中川専門家

ヘイハチローの「ナマステ、ネパール」コーナー

(還暦を過ぎて、初めての海外、厳しい環境のネパールで技術協力・生活に取り組む「中川平八郎専門家」の「眼」で見た「ネパール」を紹介するコーナーです。)

マーダルとサラング

連れ合いが“マーダルを習いなさい。”と言う。マーダルが小太鼓ならサラングは三味線と言ったところと此の国では思う。昨年の夏頃から此の国で新しく知り合いになったお友

達と連れ合いはサランギを習っているが、太鼓が無いと面白くないそうだ。そこで、中川良平お墨付きのリズム音痴の小生は、数回個人レッスンを受け始める事になりました。敲くのが楽しくてならないと言った先生は全て口三味線で教えます。譜面如き物はありません。昔尺八を習った事がありました、其れには“ト・レ・チ・レ・リ・・・”と言った縦向けに書かれた譜面がありました。



マーダルとサランギ

体で覚えるしかないのです。勝田君と言う環境教育を専門にする青年が仲間に入る事になって、“君は、二番弟子だからね！”と約束をして始めました。学校で教えて頂いたリズムとはチョッと違います。時々一人で復習をしますが思いつきません。先生からは、サランギに自信を持ち始めた連れ合いを助教にするから一日二十分は練習するようにとの指導。ご懸念されます様に、この助教と揉める事になっている今日この頃です。

ジャカランタの華が咲き今年もマチェンドラの祭りが始まりました。ブラックアウト・バンド・強制ゼネストそれにカーフェーと四六時中御巡りさんが取り締まっている街でしたが、祭りの準備は結果的に別扱いだったと言う事でした。ドンガラが早朝からやります。日によって太鼓のリズムが違っているのかなと感じていますのはマーダルの事を知ったからでしょうか？

カンカン照りの現場からの帰途、地方事務所の職員が、車の中で例によって“ネパールにこんな例え話がある。”と前置きして話し始めました。ある村に歌手が来ると言うので村人は楽しみにしながら小屋掛けをして待ちました。その日、いよいよ開演し歌が始まりました。そして、堪能した村人は三々五々帰り始め、数人が残りました。何人かは涙を流して聞き入っています。歌手は、一生懸命歌いました。しかし、その人達も去って一人残りました。その人は涙を一杯ためて聞き入っています。歌手は感激しその人に近づき尋ねました。“私の歌をそんなに感激して聴いていただいて有難う。何か注文の歌はありませんか？特別に歌ってあげましょう。”と。村人は小さな声で答えました。“貴方の使っている座布団を返してください。其れは私のです。持って帰らなくてはなりません。”・・・此話は、日本でも聞いたことがあるのですが、何処でしたか忘れまして。

編集責任者：武士俊也、長期専門家：中川平八郎

電話：+977-1-5535502 Fax：同-5523528 E-mail：dmspfu@wlink.com.np URL：<http://www.dwidp.org>